

~津屋崎千軒ぐるぐるウォーク~

1/2,400 0 50m 100m

P 駐車場 **WC** トイレ **BS** バス停 (西鉄・ミニバス)

千軒通り (赤線)
ロングコース: 約1時間 (ピンク線)
ショートコース: 約30分 (緑線)

13 塩倉庫
 (旧本場務局津屋崎出張所 文書庫跡)
 津屋崎千軒の繁栄は津屋崎売塩として博多の味を支えた製塩業であり、明治36年には県下最大の塩田にまで発展したが、専売制などの経済環境の変化から衰微していき、昭和34年(1959)に最終的に廃止された。残存するレンガ通りの建屋は、庁舎に付属する文書庫跡と考えられている。



11 波折神社
 祭神は住吉明神、志賀明神、貫布杵(きふぬ)明神の三神。普賢師が遺棄しそくなった時神に折ると三神が現れ助けられたので社を建て祭りました。毎年7月中旬には山笠が勇壮に町中を駆け回ります。筑前4大画家のひとり斎藤秋風(さいとうしゅうふう)の絵馬[神功皇后伝絵図]があります。



8 津屋崎千軒民俗館「藍の家」
 江戸時代後期創業の藍染を主とした染物紺屋を営んでいた上妻(こうずま)家の住まいで、母屋と井戸屋形が歴史的価値の高さを残しています。明治34年(1901)の建築物で、平成19年国の有形文化財として登録されました。ボランティア団体「藍の家保存会」が守っています。



10 吉田醤油屋の煙突
 17代目吉田作次郎が塩田に投資していたので、津屋崎塩田の塩を利用して始めたものと思われる。商品は濃口醤油で、パリの博覧会に出品したことがある。善福寺の六角堂を寄付したこともあり、作次郎の墓は郵便局の横にある。



6 善福寺
 元和9年(1623)京都で黒田長政公が死去され、その軀(ひつぎ)を船で運ぶ途中、風を避けてこの地に畑を造って守護しました。別名を畑の内観音とも言われます。その後観音堂を建て、長政公の霊をまつた。興隆院殿の位牌が安置されている。



7 教安寺
 (新町)浄土宗。開基は寛政3年(1231)本尊は阿彌陀如来。境内には六人土の墓(※1)や津屋崎塩田(※2)を聞いた大社元七翁(おおこそもとしちおう)の墓があります。



(※1) 六人土: 寛永17年(1640)。津屋崎と勝浦の漁区争いで、直訴した六人は処刑されたが、300貫の大石を運んだところまで漁区を認められたので後に義民六土として祭られた。
 (※2) 津屋崎塩田: 寛保元年(1741)讃岐から来た大社元七翁が開基する。明治36年の頃までは勝浦と合わせた塩田の生産高は福岡県内の36%を占めていた。明治38年「塩専売法」が公布された。日露戦争の戦費調達の高であった。津屋崎製塩株式会社はやがて経営難に陥ることになる。

5 殿屋敷跡
 『村中二殿屋敷トイフ所アリ。黒田如水ノ勇復心入道。暫ク此ニ住セル。故ニ此ノ名アリ。』福岡県地理全誌より

3 新泉岳寺
 津屋崎の観光開発に尽力された児玉恒次郎氏が、東京高輪の新泉岳寺の分霊をもって、四十七士の墓を大正2年に作りました。



2 金刀比羅神社 御旅所
 祭神は大物主神(おおものぬしのかみ)、応神天皇、仁徳天皇、神功皇后(じんぐうこうごう)。大己貴命(おおなむちのみこと)、少彦名命(すくなひこのみこと)、大海津美神(おほわたつみのかみ)。享保元年(1716)修験者の大池が、讃岐から在(あら)し山の山頂に神を迎えて祀りました。毎年9月9日に津屋崎の御旅所まで御神幸が行われます。



1 宮地岳線長の碑
 2007年3月末をもって宮地岳線津屋崎〜新宮間の電車が廃線になりました。宮地岳から津屋崎まで延長された1951年(昭和26年)以来56年間走り続けたコト電車の姿は見られなくなりました。記念碑だけが残りました。



発行 (一社) ぶくつ観光協会
 〒811-3217 福岡県福津市中央3-1-1
 TEL 0940-42-9988 FAX 0940-42-9989
 MAIL info@fukutsukankou.com
 HP http://fukutsukankou.com/

10 お魚センターうみがめ
 毎週日曜日は朝市が行われ、多くのお客様で賑わいます。6~8月は6時から、9~5月は7時からです。



9 旧旅館 玉の井
 第一島屋と同じ経営者。昭和20年ごろまで第二島屋という旅館で、戦後玉ノ井となる。現在は時折展示会などが行われます。



4 津屋崎千軒「なごみ」
 まちおこしセンターはたくさんのお客様を迎える為に、市民が知恵を出し合って建設されました。昔の面影を持った外観とギャラリーや観光コーナー、トイレなどを備えています。



津屋崎人形
 【古博多人形-津屋崎人形】黒田官兵衛・長政父子は、播州から豊前中津そして筑前名島に移り、福岡の町を建設した。その城下に呼び寄せた瓦職人から博多人形が生まれた。その代表格が博多中ノ子家であるが、その中ノ子系の人形を作り続けているのが、津屋崎人形の原田家である。

